

# かお・人・interview

2020年3月13日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
博多港湾・空港整備事務所 所長

## 濱口信彦氏

nobuhiko HAMAGUCHI

成長するアジアの港として、注目度も高い博多港。人と物の大きな流れは、拡大の一途をたどりクルーズ船の寄港回数は全国二位。海上コンテナの取扱量は九州で一位を誇る。そんな中、博多港を取り巻く環境は、博多・天神地区の再開発によって、さらに地域経済の成長も加速されるだろう。港湾設備や福岡空港増設計画など現在取り組んでいる事業や課題について濱口所長に話を伺う。

### Q 所長就任にあたっての抱負

博多港は古くから九州・我が国の大陸との玄関口として、大陸との経済、文化といった国際交流の歴史があります。アジアに最も近い地理的な条件を認められ1883年(明治16)に一般開港外の特別貿易港に指定され、1927年(昭和2)には、第2種重要港湾に指定されました。これを機に国の直轄工事として第1期修築工事が開始され、現在の中央ふ頭の一部が完成しました。近年では世界各地へのコンテナ航路を持ち、またクルーズ船寄港回数は全国2位。物流・人流において、官民一体の優れた取り組みが特徴の港です。



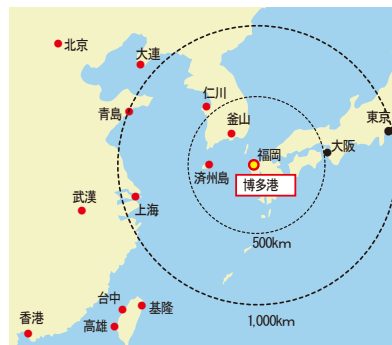
▲博多港

当事務所が直轄で事業を行っているのは博多港、三池港、福岡空港であり、いずれもモノ、ヒトの九州の玄関口となる重要な拠点となっています。博多港ではアイランドシティのコンテナターミナルの岸壁延伸や、臨港道路の整備、三池港では航路浚渫、福岡空港では滑走路の増設といった大きなプロジェクトを進めているところです。いずれの事業も九州の玄関口機能の向上に資する事業として地域からの期待を強く感じており、事業を計画的に進めて、地域のご期待に応えたいと考えています。

### Q 九州や福岡県とのかかわり

初めて福岡に赴任したのは2008年(平成20)です。今から約10年前になりますが、その後ご縁をいただき、今回が3度目の赴任です。

福岡市は5km圏内に駅、港、空港があり、都市機能も集約しており、また自然も多く



## 博多港は、クルーズで訪日する外国人の玄関口として、全国有数の拠点。

住みやすい印象です。以前から、福岡は活力がある街だと思っていましたが、インバウンドのお客様が、船や航空機で韓国や中国等から以前よりも多数の方が来福されているのを見て、ここ10年でさらに海外との交流が強くなったと感じています。

### Q 当事務所の紹介(事業内容組織特徴)

博多港については、国が直轄で整備を始めてから約90年になり、これまで港湾機能の拡充に取り組んできた結果、今では福岡市のみならず九州各県の物流を支える重要な役割を担っています。港の広さとしてはそれほど大きくはありませんが、国際海上コンテナ取扱量が九州で一番多い港です。また、クルーズ船の寄港数は、2019年は全国で第2位となりましたが、2018年まで4年連続第1位であり、クルーズで訪日される外国人の玄関口として全国有数の拠点となっています。



▲コンテナターミナル

現在進めているプロジェクトは、寄港船舶の増加や大型化、貨物量の増大に伴う交通量の増加等に対応するため、国際海上コンテナの取扱の中心を担うアイランドシティにつながる、海からのアプローチとなる航路と背後圏とのアクセスを向上させる臨港道路の整備を中心に行っています。

また、県南を中心とした地域の物流を支える三池港では、航路整備、航路護岸の補強を行っています。

福岡空港については、旅客数、発着数とも全国で第4位ですが、滑走路1本の空港ではいずれも国内最多と



なっており、ひっ迫した利用状況となっています。さらなる需要増加へ対応するため、輸送拠点としての機能強化とともに、災害時の航空機の安定的な運航を確保するための整備を実施しています。

### Q 今年度の事業概要

年間の事業費は、2019年度(令和元)当初で博多港82億、三池港5.1億、福岡空港127億円になります。博多港(アイランドシティ地区)国際海上コンテナターミナル整備事業については、岸壁延伸(水深15m)(耐震)の本体工や航路・泊地の浚渫工等を行っています。また同事業に含まれる2016年(平成28)より実施中の臨港道路整備は、2020年度(令和2)の工事完成を目指して橋梁上部工等の整備を進めています。三池港(内港北地区)国際物流ターミナル整備事業については、航路(水深10m)の改良等を進めています。

福岡空港は国内線ターミナル地域再編事業として誘導路の二重化等を進めてきましたが、2020年(令和2)1月30日に新誘導路、スポット等を供用しました。これにより、発着航空機の輻輳に伴う慢性的な遅延解消、発着枠の拡大につながることを見込んでいます。また現滑走路の西側に増設滑走路(2500m)を設ける滑走路増設事業も今年度から滑走路本体部分に着手する等、着実に進めています。

### Q 地域との連携・協働について

講演活動や事業説明会など、広報が主体の活動ですが、港に関するイベントには積極的に参加させてい





ただいています。たとえば、11月に行われる三池港浪漫フェスタには毎年参加させていただき、ブースでの展示等を行っています。現在でも海外貿易港として機能する三池港は、世界文化遺産に登録された歴史ある港です。明治時代に作られた港湾岸壁が今も残り、福岡県南部の物流拠点と近代歴史遺産の側面も併せもっています。

8月に行われる「大蛇山」まつりにも事務所で参加しています。とくに、市民による「一万人の総踊り」は2kmにも及ぶ距離を「炭坑節」や「大蛇山ばやし」の音に合わせ踊る姿は圧巻です。所長就任後、すぐに大蛇山祭りに参加させていただき、地元の方と一緒に踊りました。祭りへの参加は初めてではないものの、何度参加してもみなさんと一緒になる高揚感は忘れられません。

### Q 地域建設業への要望・メッセージ

港湾では船の出入りに加え漁業等の港湾以外の利用がある中で、航路浚渫や岸壁等の工事を進めなければなりません。例えば、コンテナターミナルの延伸工事では、船の入港予定があるときには入出港の障害となる工事はできず、また海底の土砂を取る浚渫工事は周辺の花養殖や漁の時期を避けるなど、関係者とスケジュールを調整しながら、執り行う必要があります。

また、空港も港と同様に配慮を求められる場所です。空港場内の工事は、最終便後の夜から作業に入り、朝には元通りに戻して退出しなければなりません。安全の施工は当たり前ですが、その上でスピードや特殊な技術力が求められる仕事です。

これらのすべての活動を熟知している業界関係者の方々には、今後も技術の向上と若手人材確保のための

環境改善にご尽力いただければと思います。

また近年は、台風の大規模化や気候変動の影響によって大規模な出水が発生し、海にまで大量の流木や漂流物が流れ出すことが多く発生しています。その回収のために、業界の方々には、起重機船を出してもらうなど協力をいただいています。地元を熟知している業界の方々には心強い存在です。だからこそ、日頃から腕を發揮していただく機会は非常に大事になってきます。機材や技術のノウハウは日頃の業務の中で蓄積されますので、我々発注者側も持続的な業務につながるよう意識を持ちたいと思います。

### Q この仕事を選んだきっかけ・趣味

旅行が好きで、学生時代から国内、海外を回っていました。こうした経験の中で、利用する交通インフラに関心を持ち、土木を志望しました。

学生時代に関西国際空港の開港（平成6年）等の大きなプロジェクトが完成する一方で、その翌年の阪神淡路大震災で多くのインフラが被災するのを目の当たりにし、インフラ整備への意識がより高まったことが現在の仕事を選んだきっかけと言えると思います。

趣味は旅行に加え、気軽に行けるトレッキングです。あまり重裝備の必要もなく、自分のペースで自然を楽しむ気軽さが私にはピッタリだと思っています。

福岡は少し遠出すれば、海と山の両方を楽しめる立地です。意外と県内を回っていませんでしたので、いろいろと回ってみたいと思います。



**災害から人々の生活を守る、その重要な役割を担っているのは地域の建設業界の方々です。**

### プロフィール



出身地：大阪府  
生年月日：昭和47年10月10日（47歳）  
H10年4月 港湾局 建設課 採用  
H19年4月 港湾局 技術企画課 技術監理室 課長補佐  
H19年7月 港湾局 計画課長補佐  
H20年9月 九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課長

H22年4月 九州地方整備局 港湾空港部 港湾空港環境対策官  
H24年4月 港湾局 産業港湾課長補佐  
H26年4月 内閣府 沖縄総合事務局 石垣港湾事務所長  
H28年4月 九州地方整備局 港湾空港部 港湾空港企画官  
H30年4月 観光庁 観光地域振興部観光地域振興課 広域連携推進室長  
R元年7月 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所長